社員の皆様へのメッセージ

株式会社　イナテック
代表取締役社長　稲垣良次

2014. 12
No.256

“イナテック企業理念”講話

“イナテック企業理念”はイナテック創立50周年の時に発表した理念であります。

私は直接社員の方々に伝えたいという想いがあります。その為、入社して頂く方にも直接ご説明し、また、学生さんへの企業説明会でも私自身の肉声でお伝えしております。

企業理念の中でも申し上げていますように、フェイス toフェイス、ハート toハートがやはり基本だと思っていますし、皆さんに模範を示さないといけないという私のこだわりでもあります。

さて、今までに私が何回イナテック企業理念をお話しているのか(残念ながら)数えてはいないのですが、だいたい毎月4回として一年で48回講話を行っています。そして今年が創立62周年ですので、今までに576回ほど、この企業理念を様々な方々にお話していることになります。

私としましては、これだけお話をしているので、少しは社員の皆さんに伝わっているだろうと思う気持ちが頭の中のどこかにあり、社内でこの企業理念が浸透できていない場合を目の当たりにした時など、「なぜ」と思うことがありました。

そういったなかで、月刊致知11月号『稲盛和夫に学んだこと』というテーマの森田直行会長の記事に出会いました。

『責任者というのは壊れたレコードのように同じことを何度も繰り返して下の者に伝えなければいけないというのです。

「何度同じことを言わせるんだ」

という声はどこの会社からでも聞こえてきそうですが、そんなことを言っているようでは人の上に立つ人間としては失格で、むしろまた同じことを言っているなと思われるくらい言い続けなければならない。そうすれば言われまいと避けて行動することで賢くなっていくというのが稲盛会長の考え方でした。』

この記事に出会って、「今まで576回程度、企業理念を講話したくらいで自分は何を言っているんだ」と私自身気持ちを入替えました。

壊れたレコードのように、“一生”皆さんに語り続ける覚悟です。宜しくお願い致します。

イナテック企業理念を理解し、行動にあらわせる社員の方が一人でも増えれば、この上ない私の幸せであります。

“社員の皆様へのメッセージ”

最近、遠方より御来客があり、そのご挨拶の中で私が毎月書いている“社員の皆様へのメッセージ”の話が出てきました。

思えば、1993年の9月に第一回目のメッセージを発信して以来、21年間毎月書いております。今月で256回目になります。なぜこのようなメッセージを書こうとしたのか、私のその想いをお話しいたします。

21年前、毎週月曜日に社員の方々に食堂に集まって頂き、朝礼をしておりました。その中で、私が皆さんの前で15分間くらいスピーチしてお

りました。そのときは既に勤務体制が3直体制でしたので、月曜日の朝礼にみえる方々は全社員の半分くらいでした。他の半分位の社員の方々にわたしのスピーチを聞いてもらうことができなかったのです。

私が考えていることを社員の皆さんに伝えているつもりでも全員に伝えることが出来ないということや、スピーチというものは「声」を媒体とするので、その時は覚えていても、後には何も残らないということなど、このままスピーチを続けていってもいいのだろうかという疑問がふつふつと湧いてきました。

それではいっその事こう思いました。毎週の全体朝礼をやめて、“メッセージ”を書こう、そして月に一度は私自身の頭の中を整理して、私の想いを皆さんに読んでいただこう、また、それを給与袋の中にお入れしてご家族の方々にもイナテックの社長が今何を考え会社をどのような方向へもっていきどんなイナテックを目指しているのか、という一端を読んでいただこうと。

また、『続ける』ということを一番に考えたので、最初の頃は出張旅行の日記帳のようなものを書いておりました。

又、文末には『菜根譚』文集を載せました。私の文章の補足とし、少しでも皆さんに人間深さを味わっていただきたいとの想いからでした。

その『菜根譚』も前集と後集を合わせると357詩になります。

途中から載せましたが、357詩すべてが終わるのが2022年、私が70歳の時になります。まずは70歳まで頑張ろうと思っております。

10年偉大なり
20年恐るべし
30年にして歴史になる
そして、
“50年神のごとし”
凡事徹底の実践をすべく自分磨きを致します。

一九

延促由於一念、寛窄係之寸心。故機閑者、一日遙於千古、意廣者、斗室寛若兩間。

延促は一念に由り、寛窄はこれを寸心に係く。故に機閑なる者は、一日も千古より遙に、意広き者は、斗室も寛くして両間の若し。

一 延促――伸び縮み。時間の長短。二 寛窄――空間の広い狭い。三 寸心――方寸の心。心の意。四 機閑なる――心のはたらきが、ゆったりとしている。「閑」は閑に同じ。五 斗室――一斗ますほどの広さの室。ごく狭い部屋。六 両間――天地の間。

時間の長短は、その人の一念に基づくもので(時間そのものの長短は一定であるが)、空間の広狭も、その人の心一つに係っている(空間そのものの広狭は一定である)。そこで、心のゆったりした者は、一日でも千年よりも長いと思い、心の広い者は、ごく狭い部屋でも天地の間のように広いと思う。

社員の皆様へのメッセージ

株式会社　イナテック
代表取締役社長　稲垣良次

2014. 11
No.255

TPMの考え方

9月に「イナテック平湖」に出張した時に、イナテックTPMの考え方について全中国社員の方に説明をさせていただきました。

イナテック平湖も設備台数は80台を超え、社員の方々も100名を超す規模になりました。もうじきコンパクトなTPMを導入する時が来ていると考えているためこのように説明するはこびとなったのです。

平湖では、「TPMは、最終的には社員の質的な幸せ、社員の家族の幸福のために会社に導入するのです」と説明させていただきました。

TPMの目的は

設備に強い人
製品に強い人
になってください。

というコメントをしました。

そして、設備に対しては

「みなさんの子供を育てるように・・・」とお願いを致しました。

『子供を育てる』という表現をイナテック平湖の皆さんはご理解いただいたようです。

そこで思い出したのは、帝京大学ラグビー部監督　岩出雅之氏の学ばれた“教育四訓”です。

「乳児は肌を離すな。
幼児は肌を離して手を離すな
少年は手を離して目を離すな
青年は目を離して心を離すな」

これをTPMでいう“設備を、子供を育てる”に当てはめると大変良く解りますし、このように設備に手をかければよりよい製品が必ず産み出されると私は信じております。

また、管理、監督者の方々が社員の方を育てる基本的な考え方としても大変役に立つと思いますので、どこかに書きとめておいて下さい。

“観る”“看る”です。

自己完結型社員

“自己完結型社員”になってください。

たとえば、上司から頼まれた事をたらいまわしにする。

「あ、それは○○さんに言っておきました。」
「それは○○さんにやってもらいました。」

こんなことが最近見受けられました。

もちろん、簡単な事であっても自分で出来ないこともあるでしょう。他の人にお願いすることもあるでしょう。しかし、最後まで責任を持ってフォローしてください。自己完結社員になってくださいとは、こういうことなのです。

欲をいうと、できないことを他の人に頼むのではなく、「できる人に教えてもらって」、次回からは自分で出来るようになってください。

つまり、頼まれたことは最後まで責任をもつことが大切なのです。

イナテック企業理念で言っております、『仕事で後始末ができる』ということなのです。

電話応対も気になります。「誰々さんからTELがありました」と電話の用件も聞かず、相手のTEL番号も聞かないメモが多いのです。

仕事の効率を上げるためにも、必ず“用件を確認し、“相手のTEL番号を聞いておく”ことは最低限のビジネスマナーです。

そしてさいごに「私、○○が責任を持って○○へ伝えます」の一言が必要なのです。

電話応対でその会社の質がわかります。気持ちの良い応対がイナテックを変えます。

『自分の仕事を通して、心を磨いていく』

自分の役割に最善を尽くすことでもって、自分の周りの人を癒したり導いてあげる人を千人、万人つくる。そういう人が集まれば日本は平和になる。

与えられているものに感謝しつつ、それぞれの仕事、それぞれの立場において、いま一瞬を生き切る。全力を尽くすことこれが間違いなく悟りに近づいていく道であり、伝教大師の求めた一隅を照らすことにつながるのです。

宮本祖豊氏

比叡山延暦寺住職

これを読んで私は“仕事”とは「テクニカルなこと」、「マネジメントのこと」のように思う人が多いように思います。ですが、宮本住職の言われるように私たちにとって会社にいる8時間が、24時間が修行なのです。それが“仕事”なのです。

気が付いているにも関わらず、切れた蛍光灯が一か月も放置されています。しかも事務所(天井の低い)の蛍光灯です。

“トヨタのロぐせ”で出てくる『改善は巧遅より拙速』を思い出します。

さあ、グズグズ言わず自分たちですぐやろう！

一八

競逐聽人、而不嫌盡醉。恬淡適己、而不誇獨醒。此釋氏所謂、不爲法纏、不爲空纏、身心兩自在者。

一 競逐は人に聽せて、而も尽く醉うを嫌わず。恬淡は己に適して、而も独り醒むるを誇らず。此れ釈氏の所謂、法の為に纏せられず、空の為に纏せられず、身心両つながら自在なる者なり。

＊ 内閣文庫本は此の条を前文に続けて一条としているが、底本は文意により別条とする。

一 競逐――名利を競い追う。二 独り醒む――衆人が皆酔うているのに、自分独り覚めている。屈原に「世を挙りて皆濁り、我独り清めり。衆人皆酔い、我独り醒めたり」(漁夫辞)とある。

名利を追い競うことは世人のなすがままに任せて、(自分は関係しないが)、しかしまた、世人が皆名利を求めることに夢中になっているのを、ひどく嫌うというのでもない。また、名利を忘れ万事にあっさりとしてわが意に適うようにするが、しかしまた、(世人が皆夢中になる中で)、自分独りが冷静であることを誇るというのでもない。このような人こそ、仏家でよく言われる、一切の諸法に束縛されず、また、一切空というにも束縛されないで、身心ともに自由自在な達人である。

社員の皆様へのメッセージ

株式会社　イナテック
代表取締役社長　稲　垣　良　次

2014. 10
№254

生産準備会議での出来事

「設備の発注が遅れています。現状報告願います。」という司会者の発言から始まった“生産準備会議”です。

変だと思いませんか。これが製造部でお客様に1個でも納期遅れになることは大変な問題になる。生技・・・など間接部門になると自分たちの決めた日程に遅れてもおかまいなしという現状があらわれていると思いませんか。

これは言い訳をダラダラと並べているだけです。言い訳などどうでもいいから、まず必ず納期は守らねばならないのです。

私がイナテック企業理念で述べさせていただいている「自分たちの決めた納期は、自分たちで守る」という当たり前のことが守られておらず、現状は“自分たちで決めた納期を自分たちで守らない”『仲良しクラブ』となっているように思います。

最近では特に間接部門が納期(ロスコスト)に弱すぎることがよく目につきます。

製造部は一分一秒を争って仕事をしているのに生技・工務・品証・営業・・・などは我関せずと仕事をしています。

これからのＴＰＭ Part Ⅱ維持管理のポイントは、まさしくイナテック間接部門がいかに、どのようにイナテック製造に貢献できるかにあるのです。

ですから間接部門の最低限の業務に納期遅延は絶対にあってはならないことです。イナテック製造部に顔向け出来るようにイナテック間接部門も努力して下さい。

山田先生によるＴＰＭ指導会

ＴＰＭ指導会に大勢の社員の方々に参加していただきありがとうございました。前述のとおり、イナテック社員全員(間接部門も含む)が『製造設備に強くなる』・『製品に強くなる』ことが目的です。「私は間接部門だから製造設備なんか、製品のことなんか知らなくていい」ではなく製造のこと製品のことを知っていかに製造に貢献できるかを考えることが大切であると思います。

たとえば営業が設備のことを知らない、我が製造の強み弱みを知らない、又、製造でどんな問題が起きているかということも知らずに苦手な製品を受注していい訳がありません。

たとえば経理でも数字と製造現場が合わなければ、製造に何で貢献したらいいかがわかるわけがないのです。

それを解決するためにはまず自分の身を“ＴＰＭ指導会”におくことから始まります。

山田先生からは大変わかりやすく現場の設備の見方を教えていただけます。月に二十分

間くらいは必ずスケジュール調整をしてＴＰＭ指導会の“製造現場”に出て下さい。まだ間に合います。

製造に貢献できるイナテック間接部門がＴＰＭ Part Ⅱの立役者です。頑張りましょう。

“刃具カケ”ゼロをめざして

“刃具カケ”ゼロをめざして、工程内不良のない、生産性の高い、変化点の少ない現場を創造しようと、イナテック全社でベクトルを合わせていきます。たいへん難しいことですが全社員が一丸となればこの問題を克服できると思っています。

日本電産　永守社長の言葉です。

「向こうから困難さんがやって来る。

誰でも困難からは逃げたい。

だから君も困難から逃げたいだろう。

しかし困難さんから逃げてみろ。

困難さんは脇を通り過ぎて行くがひょっとその背中を見たら、後ろに『解決策』というリュックを背負っているじゃないか。

逃げたら解決策も逃げて行くんだぞ」

生きた教訓です。

さあ“刃具カケ”ゼロをめざして頑張り抜きましょう。

社員の皆様へのメッセージ

株式会社　イナテック
代表取締役社長　稲　垣　良　次

2014．9
№253

『やらされ感はダメだ』という勘違い

確かに「“やらされ感”では、いい仕事は長く続かない」と思います。しかし最初からそのようなモチベーションを上げ、実行していただくことがはたして、できるでしょうか。

昔から『やりたい事と、やれる事は別物』とよく言われております。自分に実力がないにもかかわらず「私がこんな仕事を“やらされる”なんて」と言われる人がみえます。そのような人がそのような意識でどんどん能力を伸ばして、モチベーションを上げ、会社や社会に本当に貢献できるでしょうか。

今、目の前のすべきことを先生・上司に御指導いただいてもそれすら素直に実行できない人が“私はやらされている、だからやれない”といってもそのような理屈は通るでしょうか。

ここで忘れてはならないのは、この仕事の必要性（なぜこの仕事が今、大切なのか）をしっかり説明することと、手を抜いてはならない絶対条件です。

『・・・道』（書道・剣道・柔道・・・）と言われる分野においてよく出てくるのが『守破離』です。

“守”－まずは言われた通り、型を身につけ師範まで極める

“破”－その教え（型）を少し改善する

“離”－その経過を経て初めて自分流を作る

自分流をつくる時に、初めて“やらされ感ではないもの“が出来るのだと思います。

イナテックの企業理念でも同じで、まずは「決めた事・決められた事は必ず守る」という基本から始まるのです。

先生・上司から御指導いただいた事をまずはしっかり一所懸命にやり通すことが大切だということを理解していただきたいと思います。

“ゼロエミッション”

“ゼロエミッション”とは究極の『ゴミゼロ運動』です。

これはイナテックから排出されるゴミの分別をして『3R化』することです。

Reユース　（再利用）
Reサイクル　（再資源化）
Reデュース（ゴミの発生抑制）

現在、ゴミの廃棄時にかけている費用（環境・作業も含め）は、ひとつきではレクサスが一台買えるくらいです。この費用を少しでも減少させること、そして地球環境のために再利用することを私たちは考えていかなければなりません。

よく考えてみて下さい。地球を汚しているのは“人間”だけなのです。

人間が発明・発見したものだけが地球環境をこわしているのです。

鳥が何か悪いことしましたか

さかなさんが何か悪いことしましたか

クジラでもそうです。人間が大砲を撃ってクジラを捕獲(乱獲)するようになってからおかしくなりました。そしてまた「捕鯨禁止にする」と、クジラに相談なく勝手にルールを作るのも人間なのです。

クジラさんとモリで真剣勝負をしていた時は環境は崩れていなかったのです。

だから、イナテックは廃棄ゴミをなくし、資源を再利用・再資源化にすべきです。

イナテックから『ゴミ』という言葉をなくすことから始まるのかもしれません。

少しずつ前進して行きます。皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

もっとよくしよう

この言葉は、二〇一四年一月二十三日の日経新聞に載った“見開き全面広告”のフレーズです。

「トヨタ」さんが出された広告です。“現場”を大切にされる「ものづくり製造業」としてさすがと思うのと同時に、「世界のリーディングカンパニー」がここまでされるのかと驚きました。

我々イナテックも『トヨタさんのティア2』です。この思いを大切に「お客様に喜んでいただける お客様に感動していただける」イナテックにいたします。

皆さんでじっくり噛みしめて読んで下さい。

もっとよくしよう

もっと現場を歩こう。

すべての努力はそこにある。

もっと製品と向き合おう。

モノは人よりも真実を語る。

社員の皆様へのメッセージ

株式会社　イナテック
代表取締役社長　稲　垣　良　次

2014．8
№252

他人のせいにしない（イナテックの行動指針）

『人のせいにしない』とは、イナテックの“行動指針”の一つであります。

人のせいばかりしていると何かさみしくなってくる。結局自分のしたことなのに。自分がもっと早く気付けばそんなことにはならなかっただろうに。もっと自分を磨き鍛えていれば・・・。

つまり何事においても、考え方しだいで、自己責任だと私は思います。そのように考えると前向きに積極的に生きることが出来ます。

月刊誌『致知』の７月号で塩見志満子さんの記事がありました。

塩見さんは、現在は知的障碍者のための通所施設を自費で運営しています。

塩見さんには二人の男の子がいましたが、ご長男は小学２年生の時に白血病で亡くなりました。ご次男は長男が亡くなった８年後に、プールで水泳の時間にプールに沈んで亡くなりました。

塩見さんは当初、「押したのは誰だ。犯人を見つけるまでは、学校も友達も絶対に許さんぞ」と怒りが込み上げてきたそうです。

ところが高校の先生だったご主人は、「これは凄く悲しいことだ。だけど見方を変えてみろ。犯人を見つけたら、その子の両親はこれから過ちとはいえ、自分の子は友達を殺してしまった、という罪を背負って生きていかなあかん。わしらは、死んだ子をいつかは忘れることがあるけん、わしら二人が我慢しようや。うちの子が心臓麻痺で死んだことにして・・・。」

そのご主人も62歳の時にトラックに撥ねられて亡くなりました。事故の相手の方が、塩見さんにとって世界で一番憎たらしいその人が、玄関に土下座をした時、塩見さんの口からこういう言葉が出たそうです。

「あなただけが悪いんじゃないの。車と人が喧嘩をしたら車が勝つに決まっています。あなたは若いから、主人の分まで生きて幸せになって下さいよ。そうしたら主人も成仏できる。どうかそうして下さい。」

若者は「そんな優しいことを言ってもらったら僕は生きられません。」と大声を上げて泣いたそうです。

塩見さんは「あなたを訴えてお金をもらっても死んだ者は帰らない。死んだ者が帰らないんだったら、生きている者が精いっぱい生きるしかない。私はあなたを許すことからしか、次の一歩が踏み出せないのだから。職場に復帰して幸せになってください。」そう言って許したました。

恐ろしいほど究極の「人のせいにしない」姿だと思います。

確かに死んだ人は帰ってきませんし、誰しもいつ、どこで死ぬかは分かりません。それは神のみぞ知る各々の定められた人生なのです。

『他人のせいにしない』ということを一度考えてみて下さい。

道元禅師からのメッセージ

私も永平寺には何度もお邪魔をしていますが、今まで気づきませんでした。

毎月、経営指導をしてくださっている矢野先生はそれに気づかれ、私に“道元禅師”からのメッセージを教えて下さいました。

この道元禅師のメッセージには人生や人の生き方、働き方・価値観について考えさせられる、奥深いものがあります。味わってみて下さい。

・人生に定年はない

人生に定年はありません。老後も余生もないのです。死を迎えるその一瞬までは人生の現役です。人生の現役とは自ら悔いなく生きる人のことです。そこには「老い」や「死」への恐れはなく「尊く美しい老い」と「安らかな死」があるばかりです。

・どう生きるか

生まれて死ぬ一度の人生をどう生きるか、それが仏法の根本問題です。長生きすることが幸せでしょうか。そうではありません。短命で死ぬのが不幸でしょうか。そうでもありません。問題はどう生きるかなのです。

・ひとの価値

地位・財産・職業は関係ありません。知識・能力だけで人を評価すると過ちを招きます。知識を活かす心と行いから生ずるのです。人の価値は心と行いから生ずるのです。

第52回パールレース
外洋ヨットレースに参加

菜根譚＜後編＞

7月の最終末に30時間・180マイルのヨットレースに参加させていただきました。

47艇が出場し、我々ジョーカーチームは11番目のフィニッシュでした。

軽風のスタートで、その後微風になってしまいました。風で走るヨットにとって無風というのは地獄です。潮流により太平洋のど真中でバックしてしまう有様でした。約15時間くらい、微風の中をさまよいました。反対に伊豆大島からは強風＋霧というコンディションに見舞われ、何ともすばらしいレースでした。石原慎太郎氏のコンテッサは、微風でリタイアをした次第です。

ヨットレースはそれなりですが、我がチームを指導してくれる石川社長は、『無事蒲郡に帰港(ホームポート)し、掃除をして整備をして、始めてレースというものは終了するんだ。決して掃除に手を抜くな。強いチームにはなれんぞ。』と我々にヨットに対する理念を説いて下さいました。私は心を打たれ、これは人生にも仕事にも通ずることであると確信いたしました。チームの皆さん、楽しませていただきありがとうございました。

社員の皆様へのメッセージ

株式会社　イナテック
代表取締役社長　稲　垣　良　次

2014．7
№251

世界を驚かせた
日本人識字率の高さ

『日本は数百年にわたって世界的に高い識字率を誇っています。江戸時代の幕末期においては、武士はほぼ100％読み書きができたといいます。庶民層でも男子で約40％～50％は読み書きができました。同時代のイギリスでは下層庶民の場合、ロンドンでも字が読める子供は10％もいませんでした。

一八五三年に黒船を率いてアメリカからやってきたペリー提督は、日記に日本について、「読み書きが普及していて、見聞を得ることに熱心である」と記しています。ペリーは日本の田舎にまでも本屋があることや、日本人の本好きと識字率の高さに驚いたということです。』

㈱エルム　社長　渡辺政俊氏

我々日本人は先輩方の素晴らしい勤勉さをDNAとして持っています。本を読むことが少なくなったと言われている現在、もう一度自分を磨くためによい本を読む習慣を身に付けたいものです。

私が感銘を受けた詩を二つ紹介したいと思います。

一つ目は坂村真民先生の詩です。

よい本を読め
よい本によって
己を作れ
心に美しい
火を燃やし
人生は尊かった
と叫ばしめよ

二つ目は「心の花を咲かせる」です。

こちらは出展は分かりませんが、素晴らしい詩です。イナテック企業理念に通じるものがあると思っております。

心の花を咲かせる

雑草は放っておいても、瞬く間に繁茂(はんも)する。
しかし美しい花は水を与え、肥料をやり、虫を除け、丹精込めて育てなければ花は開かない。
人間の心も放っておくと雑草が生える。
心の花を咲かせるためには、絶えず心を見張り、雑草を抜き取らねばならない。

本当に素晴らしい詩です。

私は、「美しい花は水を与え肥料をやり虫を除け」の一節は「一所懸命勉強しなさい、良い本を読みなさい」と言っているように思えてなりません。

“丹精込めて”というのは凡事徹底、つまり陰日向なく、コツコツとやり続けることだと思っています。

つまり「心の花を咲かせる」ためには、“よい本”を常に読み、学び、凡事徹底で常に“自分磨き”をすることが必要です。そうすれば心のすばらしい花が咲くのです。何事にも決して手を抜かないこと、それが私たちにとって最も大切なことではないでしょうか。

本心の出るところ

「コールセンターで、クレームをよく起こすオペレーターは、足元が落ち着いていないそうです。お客様からの電話を受けるとき、足を組んだり、靴を脱いだり、サンダルをひっかけて足をぶらぶらさせているようなオペレーターは、問題を起こしやすいのです。

逆にお客様の対応がとても上手な優秀なオペレーターは必ず足を揃えて交渉しているとのことです。

動物行動学者によると、人間の本心は顔と足元に出るそうです。顔に出るのは良く解ります。足元に出るのは意外ですが、逆に顔から一番遠くにあるため、心の模様が出やすいからだと言います。」

船井総研　橋本直行氏

このお話によれば社員のマナー研修の際には表情と足元をピシッとさせるのがポイントになるようです。

仕事の出来栄えと“足元”に相関があるとは、意外で恐ろしい話です。自身をふり返り恥ずかしくなりました。

イナテックの企業理念では、「立腰教育」や「笑顔であいさつ」を皆さんにお願いしています。

これからは社員の方々もお互いに“足元”について注意し合い、品格のあるキレのいい仕事が出来るようになりましょう。

菜根譚＜後編＞

社員の皆様へのメッセージ

株式会社　イナテック
代表取締役社長　稲　垣　良　次

2014．6
№250

安全準備月間

この６月は、毎年政府主催の「７月１日～７月７日の全国安全週間」に備える準備月間であります。

今年度の全国安全週間のスローガンは「みんなでつなぎ　高まる意識　達成しようゼロ災害」です。安全第一で無災害を目指しましょう。

他人のせいにしない

イナテックの会議に出てくる言葉

・　売上がないから利益が出ない
・　「お客様が休出」だから我々も休出する。
・　メンテしないから機械故障が多い。
・　契約社員の人の欠勤が多いから工数がかかる
・　減価償却費が高いから利益が出ない
・　生産調査課がやってくれないから・・・

よく聞いていると人のせいにしてばかりのような気がしてなりません。

お互いにもう一歩ずつ踏み込んで、検討や議論をして欲しいと思います。その方がお互いに気持ちがいいはずです。

「人の批判をする人は下の下」と矢野先生にご指導を頂きました。

胸が痛むのは私だけでしょうか。お互い気を付けたいものです。

イナテック社員の皆さんは、お客様や他部署のせいにするのではなく、自分から一歩踏み込んで解決しようとしてください。

確かに初めはめんどうだと思います。仕事も増えると思います。けれども着実に効果は出るはずです。

イナテックの人財戦略の中では、『自ら考え、自ら行動する人財育成』を目指しております。まさしく“一歩踏み込む”ことです。それは見て見ぬふりをして人のせいにすることではないということです。

『受身型→行動型』へ変えていきましょう。

円滑なコミュニケーションの基本を阻害するマスク

これは日経新聞（2014年５月５日）に載っていた記事です。

『全国高等学校ＰＴＡ連合会が高校生を対象にした調査によると、

「病気や予防でもないのにマスクをすることがある」

「顔を隠して落ち着きたい」

「ニキビを隠したい」

「安心する、落ち着く」

「表情を隠すため」等の回答があがった。

連合会の担当者は「相手の表情から気持ちを汲み取るという、円滑なコミュニケーションの基本を阻害するマスクの流行の実態が明らかになった」と指摘している。』

私もひどい花粉症ですが、やはり顔を隠していたらコミュニケーションにならないと考えています。

イナテックの企業理念の中で私は

「フェイス　to　フェイス」「ハート　to　ハート」

「目は口ほどにものを言う」

と常に申し上げています。

会社内でこのような変なマスクが流行するようでは、コミュニケーションのとれないイナテックになってしまいます。仕事が出来ても楽しくも何ともなくなることでしょう。

以前もこのメッセージ欄で申し上げた事がありますが、世界の常識としては重病人以外はマスクをしないのが普通です。なおかつマスクは98％以上病気に対して効果がないと発表されています。

- 鼻を出して口だけマスクで隠す
- 帽子を深くかぶり、マスクをする

これではまるでコミュニケーションの取りようがなく、こんな人のあふれたイナテックの職場になったとしたら、ぞっとするのは私だけでしょうか。

表情豊かな明るい笑顔が会社の空気を良くすると思います。

どうしてもマスクをしないといけない場合もあると思いますが、せめて会話をする時はマスクを外して表情豊かに笑顔でコミュニケーションが取れるイナテックにしたいと思っています。

どうかイナテックの企業理念をご理解いただき、気持ちの良い環境の職場づくりに協力してください。

学ぶ・磨く・育てる　心技体

（2014年5月5日　日経新聞）

馬術

練習後、小雨でぬれた体を拭いて優しくブラシング。馬は乗り手を見定める。世話を怠っていると技術があっても結果は出ない。時には躾も大切、時間をかけて信頼関係を築いていく。

生徒は物言わぬ馬から言葉以外のコミュニケーションを学ぶ。

じっと見つめると気持ちがわかる気がする。学校生活でも相手の目を見て話す習慣が身についた。

馬（動物）とのコミュニケーションを通じて、人間のコミュニケーションを学ぶ。目と目、心と心がつながることで、笑顔が笑顔を誘うすばらしい環境が生まれます。それが出来た時すばらしい、イナテックが出来上がると思っております。

菜根譚＜後編＞

社員の皆様へのメッセージ

株式会社　イナテック
代表取締役社長　稲　垣　良　次

2014．5
№249

イナテック 52 期スタート

5月1日よりイナテック52期がスタートいたしました。

昨年度51期(2013年度)は2012年度に比べ売上高は横ばいで、収入は微増でした。もちろん目標は未達でした。経営者の通信簿としてはこの結果は失格だったかもしれません。

今年度52期は皆さんと目標の摺合せを行い少し頑張れば達成出来るように目標を設定し、日本の経済成長より少し高い2.2％(売上高経常利益率)といたしました。

業界の中では決して高い利益率ではありませんが、52期はしっかり足元を固める事でじっくり改善の効果”が出せる企業体質にしたいと思います。

〈競争方針〉

５Ｓ(整理・整頓・清掃・清潔・躾)の徹底

(物の５Ｓと業務の５Ｓ)

〈技術方針〉

加工点にこだわった技術の徹底追及

イナテックの使命は

「お客様に感動し、喜んでいただくこと」

イナテックが自らの使命を果たす方法は

「お客様に100％良品をお届けすること」

です。

カエルがジャンプするためにしゃがみ込んで準備している時のような年度になります。

やればできると思っており、それだけの実力はついてきていると確信しております。

この一年よろしくお願い致します。

52期業務報告会から見えてきたもの

イナテックが目指すところは、

・勝ち残れるダントツ技術

・キラリと光る技術

です。

そのためには、製造の困り事を解決することが大切です。

Ex ・刃具カケゼロ

・打コン不良ゼロ

・圧コン不良ゼロ

・寸法不良ゼロ　等々

この加工点を極めることが、“勝ち残れるダントツ技術”であり、“キラリと光る技術”なのです。

さあ、今から3ケ年かけて『加工点』でイナテックは勝負を致します。

刃具を交換し、次の刃具交換点で寸法がそろう(もちろん確認のための測定は大前提)ラインです。それは製造の人たちが楽(ラク)に製品(商品)を作れるラインにすることです。

必ずイナテックのノウハウの詰まったラインが出来るはずです。

皆で頑張り、勝ち残り企業になろうではありませんか。

良いものを高くお買い上げいただく

“致知”2014年5月号に村尾隆介社長(スターブランドトップコンサルタント)の記事が載っておりました。

テーマは『小さな会社をキラリと光る存在に変えるブランド戦略』でした。

私(稲垣良次)は、「良いものを高く売る・買っていただく」そんな都合のいいことが、そう簡単にある訳がないと思っております。

そこには“良い製品を作り続ける”、そういう凡事徹底の精神が根底に流れ続けていなくてはなりません。

そこで先ほどの「加工点」についてです。他社ではマネの出来ない技術、それがキラリと光る技術です。それには、やはりお客様に感動して、喜んでいただくことが必要になります。これは村尾社長と同じところでした。

また我々は営業の在り方についても変えなくてはならないと思いました。「あれもできます、これもできます、何でもうちに頼んでください」と村尾社長が言うとおり、器用にやっている会社に限って価格競争に巻き込まれる、まさしくイナテックの営業の姿そのものでした。

これからは“加工点”にこだわり、「お客様に喜んでいただける“キラリと光る技術”をお買い上げいただけるように努力していかなければなりません。。

この致知の村尾社長の記事の中で『ジャストヨット運送』の話が載っていました。その愛知県内の会社は、大手自動車会社の自動車の部品の運搬が大多数を占めていました。ところが最近、組立て方法が変わり、以前の1／10の売上になってしまったそうです。

しかしこの会社は、ヨットの運送に特化し、ヨット運送の市場でシェア100％を取るという戦略を立て、仕事量を着実に増やし、他社との価格競争に陥ることなく活路を見出したのです。

もちろん運送だけでは250名の会社を支えていくことは出来ません。本業を維持しつつ、“小さなブランド”を生み出していくことで、会社を維持していくことが出来るのです。

イナテックもこのジャストヨット運送のように、“キラリと光る技術“を、ニッチな所でシェアトップを目指せばもっと楽しい会社に生まれ変わると信じております。まずは我々の発想を変え、「加工点」にこだわり“キラリと光るイナテックの技術”を確立しようではありませんか。

菜根譚＜後編＞

実はこのジャストヨットの記事の話を私のヨット仲間に話した所、最初は気が付かなかったけど、その仲間が「稲垣君、そのジャストヨット運送は○○君の会社だよ」と・・・ その○○君はヨットクラブチームの仲間でした。
すごい人が近く人いるんです。
必要・必然 会いたい人に一瞬のズレもなく会える

社員の皆様へのメッセージ

株式会社　イナテック
代表取締役社長　稲　垣　良　次

2014．4
№248

新入社員の皆さんへ

入社おめでとうございます。

今日は皆さんの社会人としての新たな人生のスタートです。

そこで新入社員の方々に一言アドバイスを致します。

まず、この世に楽な仕事などないということです。仕事は厳しいものだけど、決して殺されるわけではないので、腹を括ってください。

始業時間中や約束の時間ぎりぎりに来るような人間は、絶対に伸びません。

大切なことは、「向き・不向きより前向き」に、与えられた目の前の仕事に真剣に取り組むことです。

いま与えられた仕事に対して一所懸命努力していくこと以外、自分の人生を善い方向へ導いていくれる解決策はないということです。

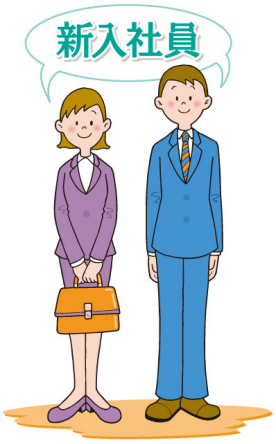
次に「人生で大切なのは何事にもいつも前向きに笑顔でいることです。それがひとつの社会貢献なのです。

なぜそれが社会貢献かと言うと、我々はまわりの人たちや自然の中で生かされているからです。

だとすれば仏頂面でなく“笑顔”をふりまくことがどれだけ大切かということがお分かりいただけるかと思います。

・仕事というものは厳しいもの
・与えられた仕事は一所懸命やること
・いつも笑顔で前向きにふるまうこと

これが皆さんへのお祝いの言葉です。



AW蘇州様で総合優秀賞

2013年度の中国・AW蘇州仕入れ先の中で、稲垣汽車配件(平湖)有限公司〈イナテック平湖〉が仕入先32社中第1位の総合優秀賞をいただきました。

これもマザー工場であるイナテックの本社の皆さんの支援とイナテック平湖の中国社員の方々の努力の賜物と感謝申し上げます。

AW蘇州様の開業年度でイナテック平湖が最初に総合優秀賞をいただけたということは、AW蘇州様の歴史に残る大変素晴らしい事と思います。本当にありがとうございました。

そしてこの名誉にふさわしいイナテック平湖であり続けることが董事長としての私の仕事であります。問題点は見えてきました。その問題点を中国の社員の方々を始めイナテックグループの総力を上げて、名実共に最優秀会社のイナテックとして頑張り続け、イナテック平湖の社員の方々に幸せになっていただけるよう努力致しますので、よろしくお願いいたします。

本当に感謝申し上げます。

まだまだ元気です

前月号に「私のリビングウィル」を書かせていただきました。皆さんから色々と感想を寄せていただき、ありがとうございました。

2014年の2月22日(土)極寒の日でした。新しいヨットを蒲郡に運ぶために神戸の西宮ヨットハーバーから30時間かけて廻航セーリングを致しました。朝6時に神戸を出港し、関西空港を左手に見ながら船を進め、夕方には「日の崎」を通過し、真夜中に潮岬を通過しました。

5名で交代して仮眠をとり、航海で一番重要なワッチ(監視)を手分けして行いました。

正直、とても寒かったです。いくら着込んでも寒いものは寒いもの、露天で操船するわけですから当たり前です。

早朝の紀伊長島で、太陽というものからこんなに暖をいただけるものかと、お天道様に感謝しました。お陰様で正午頃には無事、蒲郡に到着することが出来ました。

今年62歳になる私も還暦からの第2の人生を楽しんでいます。この61歳のじじいに敗けないよう皆さんも頑張って下さい。

私の夢に一歩近づく

私は企業理念を皆さんにお話しさせていただく時に「私の夢は65歳までに太平洋をヨットで渡ることです」と10年前から皆さんの前で宣言して参りました。

ヨットを始めて35年になりますが、今回のヨット(中古船)は、ロスアンゼルス→ハワイレースに参加したヨットなのです。もちろん沖縄→東海レースにも、鳥羽パールレースにも参戦しています。国際レースに出場可能な素晴らしい船です。

残された課題は、我々の根性とセーリング技術を磨くことです。そうして太平洋横断が実現致します。

もちろん人間づくり、品格や人間性を磨くことも大切です。自分磨きを死ぬまでやり続けますので、よろしくお願い致します。

私が元気でいることがイナテック社員の皆さんを幸せにする第一歩で、私の使命と考えております。

61歳で　毎日筋トレ

毎週トレーニング

フルマラソンへの挑戦

これらを、夢を実現するために、生涯現役で頑張ります。

社員の皆様へのメッセージ

株式会社　イナテック
代表取締役社長　稲　垣　良　次

2014．3
№247

“死に際を考える”ことは
生きることを考える

私はイナテック企業理念の中で「仕事・人生の後始末をすることが大切です」と常に語らせていただいています。

私自身いつも自分の後始末について考え、興味を持っています。そんな中、慶応大学医学部の近藤誠先生の本(『医者に殺されない47の心得』より)に出会うことが出来ました。サブタイトルは『医療と薬を遠ざけて、元気に長生きする方法』です。

その本の最後に“リビングウィル”という言葉が出てきました。

それは自分の死の間際にどういう治療を受けたいかを“判断能力”のあるうちに文書にしておくことのようです。

日本では、リビングウィルはまだ法的な力はありませんが、書いておくことで意識を失った後も家族や医師に延命医療についての自分の意思を伝えられるということです。

私が企業理念の中で申し上げている“人生の後始末”の一つの方法ではないかと思っております。

自分で説明できなくなった時、色々な終末、「どう死にたいか」の希望は一般的に色々あります。

「鼻チューブ栄養のような強制的な栄養補給は一切不要」

「人工呼吸が一週間続いて意識が戻らなかったら装置を外して欲しい」

「植物人間状態になっても出来るだけ生きたい」

「自分で食べられなくても胃瘻をしてでも生きたい」など

具体的に書いて身内の同意をもらい、毎年更新していくものがリビングウィルです。

そこで私(稲垣良次)も近藤先生のリビングウィルを参考にさせていただき、自分で考えたものを書いてみました。

～稲垣良次のリビングウィル～

一切の延命治療はしないでください。

私は会社では社員の皆さんに企業理念も我慢してよく聞いていただけたし、無理な方針にも対応して頂き、やりがいのある仕事もさせていただきました。

社員さんも500名を超し、中国平湖にも会社設立が出来、これも皆さんのお蔭です。

又、ヨットにも乗らせていただき、レクサスLFAも乗せていただき、マラソンや駅伝にも参加させていただいた家族にも大変感謝いたしております。

わがままで、好きなことばかりやってきたこと、申し訳ございません。

本当に幸せな人生です

私は皆さんのお蔭でやりがいのある人生を生きてきました。

61歳まで好きなことに打ち込めて幸せでした。
そして自分らしく人生を終えたいと思っています。
今、私は意識を失っているか、呼びかけに少し反応するだけだと思います。すでに自力では呼吸もほとんど出来ないかもしれません。
このまま命が尽きても、何も思い残すことはありません。
だから決して救急車は呼ばないでください。
すでに病院にいるなら、人工呼吸器をつけないで下さい。つけられているなら、外して下さい。自力で飲んだり食べたり出来ないなら、無理に口に入れないでください。
点滴もチューブ栄養も、昇圧薬、輸血、人工透析なども含め、延命のための治療も何もしないでください。すでに行われているなら、すべてやめて下さい。
もしも私が苦痛を感じているようなら、モルヒネなどの痛みを和らげるケアはありがたくお受けします。

今、私の命を延ばそうと力を尽くしてくださっている方々に、心から感謝いたします。
しかし私のこの願いを聞いてください。私はこの文章を冷静な意思のもとに書き、家族の了解を得ています。
一切の延命治療をしないで下さい。
この最期の願いをどうぞ叶えて下さい。
決して後悔しないことをここに誓います。

2014年1月17日

稲垣良次

これはイナテック企業理念で語らせていただいていることの一つの実践のかたちだと思っております。
皆さん宜しくお願い致します。
ありがとうございました。

社員の皆様へのメッセージ

株式会社　イナテック
代表取締役社長　稲　垣　良　次

2014．2
№246

2014年に思うこと

私がＡＷ様から仰せつかっている、ＡＷ協力会会長として、2014年１月８日にＡＷ協力会新年交礼会で行った年頭のご挨拶の一部です。

『今年は午年です。馬の視野は350度あるようです。真後ろを除いて、ほぼ全てを見通すことが出来ます。我々も馬のように広い視野を持たねばなりません。

しかし、馬のようにあらゆる方向が見えるからと言って過剰に臆病にならずに「何事もやる前から悩むのではなく、まずはやってみる」というチャレンジする気持ちが大切だと思っております。つまり

一．広い視野を持つこと
二．チャレンジすること

この２点を心掛け、そしてＡＷ様に喜び、感動して頂ける2014年にしたいと思っております。

次に、「世の中は自分一人では何もできない。宿命的に人様の力が必要」と言うことです。

我々はＡＷ様あってのものです。そして各社の社員の方々の英知を120％引き出すことが私共経営者の役割であります。

その英知を結集して、ＡＷ様の夢を共有させていただき、その実現の為にも世界Ｎｏ１のＡ／Ｔ部品を供給できるよう、ＡＷ協力会としても挑戦を続けて行く所存です。』

等々述べさせて頂きました。どうか2014年も宜しくお願い致します。

イナテック企業理念は いつごろから話しているのか

このイナテック企業理念

『確かな技術と磨かれた心で社会に貢献』は2002年の創立50周年の時に発表したものです。

そして、全社員の方々に毎回説明させていただくようになったのは翌年の2003年８月の会社説明会からのようです。

また、そのきっかけは、あるイナテックの社員の方から「イナテックという会社は、決め事をしてもすぐにやめてしまう会社だ！」と耳にしたことがあり、胸に手を当てると確かに身に覚えがありました。

そこで、社長自身が社員の皆さんの前で語り続ければ自分の“力”にもなるし、皆さんへの誓いにもなり、「すぐやめてしまう会社」を自分から絶対変えてやるぞ、と言う思いでした。

お陰様で、11年間企業理念を語り続けているし、TPMもやるぞと決めてから７ケ年、『優秀賞』までたどり着くことが出来ました。

まさしく、「すぐやめてしまうイナテック」から「こだわり続けるイナテック」に変貌したと言って過言ではないと考えております。

その他続けていること
1．社員の皆様へのメッセージ
1993年９月より21年間毎月実施現在246号
2．トイレ掃除
2001年９月より毎日実施

もちろん、これからも死ぬまで語り実践し続けます。

人は何のために生きるのか
何のために働くのか

イナテックの企業理念として『確かな技術と磨かれた心で社会に貢献』イナテックでの仕事を通して自分を成長させ、人間形成をして下さい、と述べさせていただきます。

そしてなぜ人間的成長をさせなければならないかと言うと、『お客様に喜びと感動を与えること』が使命なんです、と説明させていただいています。

そこでもう一歩視点を上げて、最近考えてきました。

それは

イナテックが存在する意義

（人は何のために生き、何の為に働くのか）

イナテック社員の生活の質の向上と心の幸福を追求すると同時に自然や世の人様の為に尽くす、人様のために働くことが、地球の進歩発展に貢献することである。

㊟ 幸福とは楽しく生きる

与えられた喜び

皆に感謝

以上が『お客様に喜びと感動をお届けする（お客様に100％良品をお届けする）』の上位概念になることのように思ってきました。

これについてはもう少し整理させてください。

”なぜ続ける”のか（中村天風・代）

（社員の皆さんになぜ理念を語り続けるのか）

大切なのはその習慣を何年も持続すること。一つのことを続けて行くことは、ものすごく苦痛をともなうが、それを払いのけるとそのプロセスが人格を練り上げ、人格を作り、ぶれない自分が出来上がってくる。

そうすれば素晴らしい未来が開けてくる。

「ずっと続けていると、“魅力”というおまけがついてくる」（津川雅彦）

社員の皆様へのメッセージ

株式会社　イナテック
代表取締役社長　稲　垣　良　次

2014．1
№245

新年明けまして
おめでとうございます

2013年を振り返ってみますと、まずは『ＴＰＭ優秀賞カテゴリーＡ』を皆さんの努力のお蔭で受賞できたことです。

もう一度、ＴＰＭについて整理してみます。

ＴＰＭ・・・Total Productive Maintenance
（日本プラントメンテナンス協会より）

ＴＰＭは「生産システム効率化の極限追求（総合的効率化）をする企業体質づくりを目的にして生産システムのライフサイクル全体を対象とした“災害ゼロ・不良ゼロ・故障ゼロ”などあらゆるロスを未然防止する仕組みを現場現物で構築し、生産部門をはじめ、開発・営業・管理などのあらゆる部門にわたってトップから第一線従業員にいたるまで、重複小集団活動により、ロス・ゼロを達成すること」と定義されています。

イナテックはこのＴＰＭ活動の中のカテゴリーＡで優秀賞をいただけたわけであります。

ＴＰＭの成果

ＴＰＭ活動を皆さんで推進した結果の成果は、何と７年間で14万件と言う提案・エフ付けエフ取り改善ができたという事実です。イナテック社員の皆さんの気づきのレベル・改善のレベルが向上したということであります。

その結果、我がイナテックの重要なお客様であるＡＷ様での不良件数で見てみますと、昨年（2012年度）比でなんと74％も低減しております。やはり皆様が愚直にＴＰＭ活動を実行していただき、皆様が成長した成果だということです。

2014年のＴＰＭ活動

2014年のＴＰＭ活動は2013年に実施したモデルラインのみでなく、全ライン・全設備に対し、“自主保全活動”を実施し、『あらゆるロスゼロ』に向けて活動することであります。

そのＴＰＭ活動を通じてイナテック社員の皆さんが各々のスキルを向上させていただくことがイナテックの社会貢献であります。

今後のＴＰＭ活動

ＴＰＭ優秀賞は事業場の規模・ＴＰＭ活動の実績によって次のように分かれています。
（コンサルの山田先生流に表現させて頂くと）

・ＴＰＭ優秀賞カテゴリーＡ　（小学校卒業）
・ＴＰＭ優秀継続賞　（中学校卒業）
・ＴＰＭ特別賞　（高校卒業）
　アイシングループ様は受賞済み
・ＴＰＭアドバンスト特別賞　（大学卒業）
・ＴＰＭワールドクラス賞　（大学院卒業）

以上、このように挑戦できるようになっております。

イナテックにとって“賞取り”が目的ではありませんが、イナテック社員の皆さんが『大学 or

大学院』をめざし、各々の皆さんが実力をつけていただくことが目的です。

どうか2014年も「勝って兜の緒を締めよ！」と気を引き締め、頑張り、成長しようではありませんか。

『小さいことを積み重ねるのが、とんでもないところへ行くただひとつの道』（イチローの言葉）です。

侮れない猫背（日経新聞　2013年3月31日）

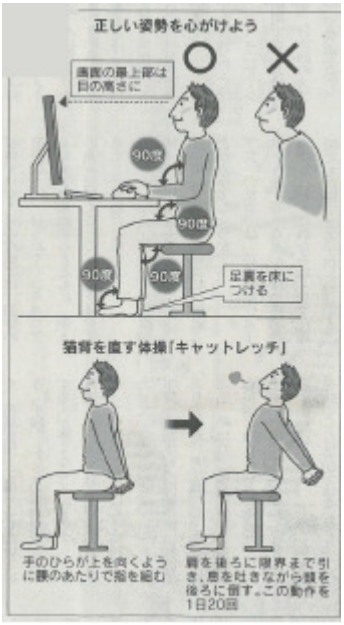
私も典型的な猫背です。それを直そうと努力しておりますが、道半ばです。

イナテック企業理念の中でいつもお話しさせていただいている『立腰教育』にもつながると思い紹介させていただきます。

猫背はさまざまな症状を引き起こします。

- 脳梗塞　頭痛
- 目の疲れ　首・肩のこり
- 呼吸器疾患
- 腰痛　椎間板ヘルニア
- 便秘
- 関節痛

と病気のデパートのようです。

なぜ猫背が癖になるのか、理由はその方が楽に感じるからです。背骨が伸びた姿勢を保つには、背筋や腹筋を使うが、実際は猫背の方が筋肉にかかる負担が大きいということです。楽な姿勢＝正しい姿勢ではないということです。

イナテック社員の皆さんが、2014年も健康で明るく元気に過ごせますよう祈願致します。